

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300133
法人名	有限会社 さくら
事業所名	グループホーム さくら瀬峰 ユニット名 A棟
所在地	宮城県栗原市瀬峰下藤沢97-2
自己評価作成日	令和 4年 10月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 4年 12月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ」を大切にし、利用者様の思いや選択を大事にしなが生活していただけるよう、職員一人一人が心を配っています。コロナウイルス感染症の流行により様々な制限はありますが、感染対策に注意し、行事等を楽しんでいただけるよう職員も頑張っています。この1年で、3名の利用者様を看取りました。利用者様、ご家族様にとって悔いの残らないような時間が過ごせるように、それぞれの要望を取り入れて対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東北本線、瀬峰駅より徒歩15分の所にある開設8年目を迎えた2ユニットのホームである。今年も「笑顔で介護」等の施設目標を掲げ、笑顔で寄り添うケアを実施している。職員の鬼に向かって豆を撒いての節分、職員がサンタになり皆でサンタの帽子をかぶって迎えたクリスマス会、他の入居者から祝いの言葉を貰っての誕生会等楽しんでいる。外出は近くの神社へ初詣に行ったり、花見や紅葉、白鳥を見たり、地元のランチを食べながら四季折々の季節を楽しんでいる。各研修会の支援や家庭の事情で時間制限のある方のシフトの配慮も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者様の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者様の 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者様と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者様は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者様は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者様の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者様はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者様は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者様の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者様は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム さくら瀬峰)「ユニット名 A棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目につく場所に掲示し、再確認しながら業務を行っている。また、年度初めに施設目標を職員から募り、投票で決めている。その目標に向かって1年間実践している。	今年投票で決めた「笑顔の対応と安心できる声掛けで、明るく元気にホットする介護をしましょう！」を事務所と各ユニットに掲示している。行事や日々の生活の中で笑顔で過ごせるように目標に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、地域のお祭りや行事等が中止となっており、日常的な交流はできていない。ボランティア等の受け入れも出ていない。	近所の方々と、散歩の時に挨拶したり、野菜や柿の差し入れがある。職員と一緒に干し柿を作り食べた。地域の方から入居の問い合わせがあり、パンフレットで説明した。地元のスーパーから食材を購入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かすまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、状況等を報告している。参加者からの意見や助言を、サービスの向上に活かしている。今年も、コロナウイルス感染症の影響で対面での開催はできず、書面開催にて、意見を募っている。	メンバーに、ホームの入居状況や外出支援、誕生日等の行事報告、行事予定等の書面を送付し意見を貰っている。「ドライブでいろいろなところに行き、美味しいものを食べ、喜ばれていることが分かる」とコメントを貰った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問、疑問があった場合には早めに連絡し、問題解決に向け指導を受けるよう努めている。	6月に震度6の強震で断水となり、近くの瀬峰支所より給水してもらった。市より生活保護者の日用品の購入額について問い合わせがあり対応した。コロナワクチン接種の案内があり、全員ホームで受けることが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回研修会を行い、職員への周知を図っている。日頃の対応について再確認している。	居室で休まれる際にコールや人感センサーを使用しているのは、安全対策であり転倒防止であることを委員会で話し合っている。帰宅願望の方には、コミュニケーションをとったり、散歩に行くなど支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、研修会を行い、虐待防止に取り組んでいる。日頃のケアを振り返り、再確認している。	身体拘束と一緒に高齢者虐待防止の勉強会で、不適切なケアがなかったかを職員間で確認している。強い口調や否定する言葉など虐待に値する可能性がある時は、その都度注意し、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学んでいるが、理解が十分でない為、今後も学ぶ機会をつくってきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念やサービス内容、個人情報の取扱い等について詳しく説明を行い、理解や納得をしていただけるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時にご家族様の意見や要望を伺っている。日頃から利用者様とコミュニケーションを図り、様子や会話の中から思いをくみ取るように努めている。	面会は玄関で、窓越しに電話で行っている。毎月の行事の写真「さくらだより」は、入居者の元気な姿や生活の様子が見られると好評である。遠方の家族にメール送付し喜ばれた。家族より野菜や新米が届いた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、協議し運営に反映させている。その他、年に1回職員面談を行い、話を聞く機会を設けている。	管理者は常に職員の意見や要望を聞いている。皮膚疾患の方の清潔保持に毎日入浴した。、いつもリビングで過ごし足に浮腫みのある方は、居室で休むなど反映された。実務者研修などの受講料の補助も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭状況や希望に合わせて勤務表を作成している。また、職員の資格取得に向けた支援を行っており、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職務内容に合わせて、必要な研修に参加させている。様々な外部研修の知らせをしたり、毎月、施設内研修を実施し、知識・技術の向上を図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬峰・高清水包括協議会やグループホーム協議会に参加し、情報交換を行っている。他職員はあまり交流の場がない。	2週間に1度、法人の管理者会議に出席し行事の確認や年末年始の対応、コロナ対策等について等意見交換し、サービス向上に努めている。瀬峰・高清水包括とメールや電話で入居の相談などを随時している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問させていただき、施設見学も行っている。面談にて意向を伺い、できるだけ希望に添えるよう努めている。安心してサービスを提供できるよう全職員と情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や施設見学の際に、ご家族様が困っている事や利用に対して不安に思っている事、要望などを伺っている。安心してサービスを提供できるよう全職員と情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活や心身の状態を踏まえ、その方にどのような支援が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご本人様ができることを職員と一緒にさせていただいている。感謝を伝えると笑顔が見られ、意欲に繋がっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と日頃から情報交換を行い、利用者様と一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は知人等の面会も行っていたがコロナ予防の為、中止している。ご家族様との面会は、窓越しで電話し楽しんでいただけるよう支援している。	登山仲間が、入居者の昔の登山姿をカレンダーにして持ってくる。孫が結婚相手と一緒に訪問し喜んでいる方もいる。リビングで話しの合う方同士がお茶を飲んだりレク活動をし、馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや雑談を通じて利用者様同士のふれあいが図れるように支援している。また、相性が悪い利用者様同士がトラブルにならないように座席なども工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、相談があった際には対応させていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様からの聞き取りなども踏まえ、その方と関わるなかで、思いや訴え等を把握できるように努めている。	美容院を経営し、花嫁姿を作ることが上手だった事や土木現場の監督をし、ホームから見える道路を作ったこと等の思いを傾聴している。「たい焼きを食べたい」「お刺身を食べたい」等思いを叶える支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話のなかで情報をいただけるよう努めている。入居される際には、これまでの経過やサービス利用についてケアマネジャーなどから情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で現状の把握に努めている。変化があれば情報共有し早めに対応できるようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の希望やご家族様の要望を聞きつつ、職員間の気付き等を検討し、ご本人様が安心して生活できるような介護計画を作成している。	家族より「穏やかに過ごしてほしい」との意向で、レクリエーションや季節の行事に参加し、楽しい時間を過ごせるようにプランに入れた。骨折で退院した方は、車椅子使用と見守りをプランに入れ見直した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、その日の体調面、生活面などを記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせてご家族とも話し合い、その方に合ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々に手伝っていただき、行事などでは楽しい時間を共有していたが、コロナ禍で行えていない。毎月の広報などから地域の出来事などを把握し、利用者様に情報を提供している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が通院介助をし、適切な医療が受けられるように情報伝達を行っている。受診結果はご家族にも報告している。状況に応じてご家族が同行することもある。	3名の方は、訪問診療を利用している。他の方は、かかりつけ医を職員が日々の状況を書いたファイルを持参し受診している。緊急時や夜間は、管理者に連絡し指示を仰げる体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1～2回出勤している。職員と情報共有し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日頃の状態や生活が分かるように情報提供している。洗濯物を届けに行った際には、その日の様子や状態を伺っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の基本的な考えに基づき説明し、同意書をいただいている。終末期になった際、利用者様やご家族様の意向を大切に、最良と考えられるケアを提供できるよう主治医や関係者と共に支援している。	入居時に「さくらにおける終末期の基本的な考え」を家族に説明し同意を得ている。終末期を迎え、ホームでの看取りを希望した場合は、医師や家族と連携を図り支援している。今年3名をホームで看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	定期的に研修を行っている。実際に現場で起こる急変や事故発生時の対応を経験し、少しずつ実践力が身につけてきている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間の火災を想定した訓練を行っている。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。消防署員から、居室からの誘導時には戸を閉めネームプレートを外す。トイレの戸は確認後閉めて置く等の講評があった。備蓄は3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応の仕方に気をつけ、利用者様の気持ちを大切に支援を心掛けている。	名前は「～さん」付けで呼んでいる。「～ちゃん」と馴染みの愛称で呼ぶ方もいる。接する時は、同じ目線で寄り添い、思いを汲むようにしている。失禁時は、小声でトイレに誘導し、ドアを閉める等羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の意見や選択、判断ができるように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリ体操など利用者様みんなで集う時間はありますが、その日の体調や希望を聞きながら、日課の押し付けにならないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理容を依頼し好みの髪型にカットしていただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のその日の状態を確認しながら、テーブル拭きや食器拭きなどを手伝っていただいている。	家族が持って来た野菜等を取り入れ、職員が調理している。誕生日や行事には、希望で郷土食のハット汁を食べている。献立は、年2回系列施設の管理栄養士に見てもらっている。庭で海鮮ちらし寿司を食べた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などをチェック、記録して一人一人の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人、声掛け誘導や口腔介助を行っている。必要に応じて歯科受診や訪問歯科を利用し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、一人一人の生活パターンに合わせて声掛け、誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや歩行介助、車椅子等でトイレ誘導している。夜間は、声掛け、ポータブル等個別に対応し、安眠にも配慮している。適切な声掛けでオムツからリハパンに改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、野菜を多く取り入れた食事や服薬管理などで、便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	無理なく入浴できるよう声掛け、セッティングを行っている。対応する職員を変更したりしながらスムーズに入浴できるよう配慮している。	湯温や入浴剤等希望に合わせて週2～3回入浴する。拒む方は、職員を変えたり時間を置いて入浴に繋げている。職員と会話したり歌を歌ったり寛いで長湯になる方もいる。湯上りのスポーツドリンクを楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節や週一回の寝具交換など、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服薬の情報を綴っており、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があれば申し送り、周知できるようにしている。服薬後の症状の変化を確認し、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の希望に合ったレク活動を提供し、楽しみながら生活できるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等、季節を感じていただけるよう支援している。季節ごとの見どころへお連れしたり、外食も行っている。	暖かい日は、庭で昼ご飯を食べたり、お茶を飲みながら日光浴をしている。ドライブで初詣、平筒沼の桜、大谷海岸、花山の紅葉等四季折々出掛け、地元の海鮮丼などおすすめランチを食べ気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により管理が難しいため、個人のお金の管理は行っていません。買い物などは施設の立替金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に電話がきた際には、話しやすい場所で話していただいている。希望があれば、職員からご家族に電話し会話していただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、自由に連絡されている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて飾り付けを行っている。気温に合わせてエアコンや加湿器等を使用し快適に過ごせるよう配慮している。	リビングは、日当たりが良く明るい。コロナ禍の中、換気したり手摺りなど消毒している。温・湿度も適切で床暖房を設置し、快適に過ごせるように配慮している。クリスマスツリーを飾り、塗り絵や脳トレ、体操をする等過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやベンチを置き、それぞれのタイミングで使用できるようにしている。利用者様の交流の場にもなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物や好みの物を持って来ていただき、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。	ベットやクローゼットが備え付けられている。居室に布団や食器、テレビ、位牌、携帯電話等持ち込んでいる。好きなテレビ番組を見たり、新聞を読んだり毎日位牌に水を供えるなど、これまでの習慣を大切に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいように利用者様の目線に合わせてネームプレートを設置している。棟内には手すりを設置し、安全に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300133
法人名	有限会社 さくら
事業所名	グループホーム さくら瀬峰 ユニット名 B棟
所在地	宮城県栗原市瀬峰下藤沢97-2
自己評価作成日	令和 4年 10月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ」を大切にし、利用者様の思いや選択を大事にしながら生活していただけるよう、職員一人一人が心を配っています。コロナウイルス感染症の流行により様々な制限はありますが、感染対策に注意し、行事等を楽しんでいただけるよう職員も頑張っています。この1年で、3名の利用者様を看取りました。利用者様、ご家族様にとって悔いの残らないような時間が過ごせるように、それぞれの要望を取り入れて対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東北本線、瀬峰駅より徒歩15分の所にある開設8年目を迎えた2ユニットのホームである。今年も「笑顔で介護」等の施設目標を掲げ、笑顔で寄り添うケアを実施している。職員の鬼に向かって豆を撒いての節分、職員がサンタになり皆でサンタの帽子をかぶって迎えたクリスマス会、他の入居者から祝いの言葉を貰っての誕生会等楽しんでいる。外出は近くの神社へ初詣に行ったり、花見や紅葉、白鳥を見たり、地元のランチを食べながら四季折々の季節を楽しんでいる。各研修会の支援や家庭の事情で時間制限のある方のシフトの配慮も行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 4年 12月 16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者様の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者様の 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者様と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者様は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者様は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者様の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者様はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者様は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者様の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者様は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者様が 2. 利用者様の2/3くらいが 3. 利用者様の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム さくら瀬峰)「ユニット名 B棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、目につく場所に掲示し、再確認しながら業務を行っている。また、年度初めに施設目標を職員から募り、投票で決めている。その目標に向かって1年間実践している。	今年投票で決めた「笑顔の対応と安心できる声掛けで、明るく元気にホットする介護をしましょう！」を事務所と各ユニットに掲示している。行事や日々の生活の中で笑顔で過ごせるように目標に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で、地域のお祭りや行事等が中止となっており、日常的な交流はできていない。ボランティア等の受け入れも出されていない。	近所の方々と、散歩の時に挨拶したり、野菜や柿の差し入れがある。職員と一緒に干し柿を作り食べた。地域の方から入居の問い合わせがあり、パンフレットで説明した。地元のスーパーから食材を購入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かすまでには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、状況等を報告している。参加者からの意見や助言を、サービスの向上に活かしている。今年も、コロナウイルス感染症の影響で対面での開催はできず、書面開催にて、意見を募っている。	メンバーに、ホームの入居状況や外出支援、誕生日等の行事報告、行事予定等の書面を送付し意見を貰っている。「ドライブでいろいろなところに行き、美味しいものを食べ、喜ばれていることが分かる」とコメントを貰った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	質問、疑問があった場合には早めに連絡し、問題解決に向け指導を受けるよう努めている。	6月に震度6の強震で断水となり、近くの瀬峰支所より給水してもらった。市より生活保護者の日用品の購入額について問い合わせがあり対応した。コロナワクチン接種の案内があり、全員ホームで受けることが出来た。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回研修会を行い、職員への周知を図っている。日頃の対応について再確認している。	居室で休まれる際にコールや人感センサーを使用しているのは、安全対策であり転倒防止であることを委員会で話し合っている。帰宅願望の方には、コミュニケーションをとったり、散歩に行くなど支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、研修会を行い、虐待防止に取り組んでいる。日頃のケアを振り返り、再確認している。	身体拘束と一緒に高齢者虐待防止の勉強会で、不適切なケアがなかったかを職員間で確認している。強い口調や否定する言葉など虐待に値する可能性がある時は、その都度注意し、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学んでいるが、理解が十分でない為、今後も学ぶ機会をつくっていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念やサービス内容、個人情報の取扱い等について詳しく説明を行い、理解や納得をしていただけるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時にご家族様の意見や要望を伺っている。日頃から利用者様とコミュニケーションを図り、様子や会話の中から思いをくみ取るように努めている。	面会は玄関で、窓越しに電話で行っている。毎月の行事の写真「さくらだより」は、入居者の元気な姿や生活の様子が見られると好評である。遠方の家族にメール送付し喜ばれた。家族より野菜や新米が届いた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンスで職員の意見や提案を聞き、協議し運営に反映させている。その他、年に1回職員面談を行い、話を聞く機会を設けている。	管理者は常に職員の意見や要望を聞いている。皮膚疾患の方の清潔保持に毎日入浴した。、いつもリビングで過ごし足に浮腫みのある方は、居室で休むなど反映された。実務者研修などの受講料の補助も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭状況や希望に合わせて勤務表を作成している。また、職員の資格取得に向けた支援を行っており、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職務内容に合わせて、必要な研修に参加させている。様々な外部研修の知らせをしたり、毎月、施設内研修を実施し、知識・技術の向上を図っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬峰・高清水包括協議会やグループホーム協議会に参加し、情報交換を行っている。他職員はあまり交流の場がない。	2週間に1度、法人の管理者会議に出席し行事の確認や年末年始の対応、コロナ対策等について等意見交換し、サービス向上に努めている。瀬峰・高清水包括とメールや電話で入居の相談などを随時している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問させていただき、施設見学も行っている。面談にて意向を伺い、できるだけ希望に添えるよう努めている。安心してサービスを提供できるよう全職員と情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や施設見学の時に、ご家族様が困っている事や利用に対して不安に思っている事、要望などを伺っている。安心してサービスを提供できるよう全職員と情報共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活や心身の状態を踏まえ、その方にどのような支援が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご本人様ができることを職員と一緒にさせていただいている。感謝を伝えると笑顔が見られ、意欲に繋がっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と日頃から情報交換を行い、利用者様と一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は知人等の面会も行っていたがコロナ予防の為、中止している。ご家族様との面会は、窓越しで電話し楽しんでいただけるよう支援している。	登山仲間が、入居者の昔の登山姿をカレンダーにして持ってくる。孫が結婚相手と一緒に訪問し喜んでいる方もいる。リビングで話しの合う方同士がお茶を飲んだりレク活動をし、馴染みの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや雑談を通じて利用者様同士のふれあいが図れるように支援している。また、相性が悪い利用者様同士がトラブルにならないように座席なども工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、相談があった際には対応させていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様からの聞き取りなども踏まえ、その方と関わるなかで、思いや訴え等を把握できるように努めている。	美容院を経営し、花嫁姿を作ることが上手だった事や土木現場の監督をし、ホームから見える道路を作ったこと等の思いを傾聴している。「たい焼きを食べたい」「お刺身を食べたい」等思いを叶える支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話のなかで情報をいただけるよう努めている。入居される際には、これまでの経過やサービス利用についてケアマネジャーなどから情報をいただくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で現状の把握に努めている。変化があれば情報共有し早めに対応できるようにしている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の希望やご家族様の要望を聞きつつ、職員間の気付き等を検討し、ご本人様が安心して生活できるような介護計画を作成している。	家族より「穏やかに過ごしてほしい」との意向で、レクリエーションや季節の行事に参加し、楽しい時間を過ごせるようにプランに入れた。骨折で退院した方は、車椅子使用と見守りをプランに入れ見直した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、その日の体調面、生活面などを記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせてご家族とも話し合い、その方に合ったサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々に手伝っていただき、行事などでは楽しい時間を共有していたが、コロナ禍で行えていない。毎月の広報などから地域の出来事などを把握し、利用者様に情報を提供している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が通院介助をし、適切な医療が受けられるように情報伝達を行っている。受診結果はご家族にも報告している。状況に応じてご家族が同行することもある。	3名の方は、訪問診療を利用している。他の方は、かかりつけ医を職員が日々の状況を書いたファイルを持参し受診している。緊急時や夜間は、管理者に連絡し指示を仰げる体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に1～2回出勤している。職員と情報共有し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は日頃の状態や生活が分かるように情報提供している。洗濯物を届けに行った際には、その日の様子や状態を伺っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の基本的な考えに基づき説明し、同意書をいただいている。終末期になった際、利用者様やご家族様の意向を大切に、最良と考えられるケアを提供できるよう主治医や関係者と共に支援している。	入居時に「さくらにおける終末期の基本的な考え」を家族に説明し同意を得ている。終末期を迎え、ホームでの看取りを希望した場合は、医師や家族と連携を図り支援している。今年3名をホームで看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	定期的に研修を行っている。実際に現場で起こる急変や事故発生時の対応を経験し、少しずつ実践力が身につけてきている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間の火災を想定した訓練を行っている。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。消防署員から、居室からの誘導時には戸を閉めネームプレートを外す。トイレの戸は確認後閉めて置く等の講評があった。備蓄は3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応の仕方に気をつけ、利用者様の気持ちを大切に支援を心掛けている。	名前は「～さん」付けで呼んでいる。「～ちゃん」と馴染みの愛称で呼ぶ方もいる。接する時は、同じ目線で寄り添い、思いを汲むようにしている。失禁時は、小声でトイレに誘導し、ドアを閉める等羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の意見や選択、判断ができるように気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リハビリ体操など利用者様みんなで集う時間はありますが、その日の体調や希望を聞きながら、日課の押し付けにならないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理容を依頼し好みの髪型にカットしていただいている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のその日の状態を確認しながら、テーブル拭きや食器拭きなどを手伝っていただいている。	家族が持って来た野菜等を取り入れ、職員が調理している。誕生日や行事には、希望で郷土食のハット汁を食べている。献立は、年2回系列施設の管理栄養士に見てもらっている。庭で海鮮ちらし寿司を食べた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などをチェック、記録して一人一人の状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人、声掛け誘導や口腔介助を行っている。必要に応じて歯科受診や訪問歯科を利用し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作り、一人一人の生活パターンに合わせて声掛け、誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや歩行介助、車椅子等でトイレ誘導している。夜間は、声掛け、ポータブル等個別に対応し、安眠にも配慮している。適切な声掛けでオムツからリハパンに改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、野菜を多く取り入れた食事や服薬管理などで、便秘の予防に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	無理なく入浴できるよう声掛け、セッティングを行っている。対応する職員を変更したりしながらスムーズに入浴できるよう配慮している。	湯温や入浴剤等希望に合わせて週2～3回入浴する。拒む方は、職員を変えたり時間を置いて入浴に繋げている。職員と会話したり歌を歌ったり寛いで長湯になる方もいる。湯上りのスポーツドリンクを楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節や週一回の寝具交換など、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに内服薬の情報を綴っており、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があれば申し送り、周知できるようにしている。服薬後の症状の変化を確認し、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の希望に合ったレク活動を提供し、楽しみながら生活できるよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等、季節を感じていただけるよう支援している。季節ごとの見どころへお連れしたり、外食も行っている。	暖かい日は、庭で昼ご飯を食べたり、お茶を飲みながら日光浴をしている。ドライブで初詣、平筒沼の桜、大谷海岸、花山の紅葉等四季折々出掛け、地元の海鮮丼などおすすめランチを食べ気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により管理が難しいため、個人のお金の管理は行っていません。買い物などは施設の立替金で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様に電話がきた際には、話しやすい場所で話していただいている。希望があれば、職員からご家族に電話し会話していただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、自由に連絡されている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて飾り付けを行っている。気温に合わせてエアコンや加湿器等を使用して快適に過ごせるよう配慮している。	リビングは、日当たりが良く明るい。コロナ禍の中、換気したり手摺りなど消毒している。温・湿度も適切で床暖房を設置し、快適に過ごせるように配慮している。クリスマスツリーを飾り、塗り絵や脳トレ、体操をする等過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファやベンチを置き、それぞれのタイミングで使用できるようにしている。利用者様の交流の場にもなっている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物や好みの物を持って来ていただき、居心地良く過ごしていただけるよう配慮している。	ベットやクローゼットが備え付けられている。居室に布団や食器、テレビ、位牌、携帯電話等持ち込んでいる。好きなテレビ番組を見たり、新聞を読んだり毎日位牌に水を供えるなど、これまでの習慣を大切に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かりやすいように利用者様の目線に合わせてネームプレートを設置している。棟内には手すりを設置し、安全に配慮している。		